

J A全農福島×郡山女子大附属高校×福島テレビ JKアグリスクール特集！ (前編)



JKアグリスクール開校式

理師免許の取得という大きな志をもって勉強に励む食料科があります。「食」を学び、近い将来「食」のスペシャリストとして活躍する若い女子生徒たちに、農業体験や県産農畜産物の調理実習を通して「食」と「農」が密接な関係にあることを知り、農業をもっと身近に感じてもらいたいという思いで、今年度初めてスタートしました。

【始動！JKアグリスクール開校式！】

5月2日(水)、食料科の生徒たち(1年生3年生) 94名が参加し、開校式が行われました。開校式では、佐藤勝則副部長がJA全農福島の事業紹介と県産農畜産物の説明をしたほか、小楡山英子職員が農業を取り巻く現状の説明やクイズ形式による講義を行いました。またJA農産

物直売所愛情館の梅津奈佳職員も特別講師として調理実習で使用する県産食材の説明をしました。

座学の後には、県産農畜産物を使用した調理実習に3年生が取り組みました。JA全農福島が提供した会津産アスパラガス・いわきサンシャイントマト・麓山高原豚を使った料理で、調理室は食欲をそそる良い香りに包まれました。ベテランの3年生ですので、手際の良さも抜群でした。TVカメラの撮影に、少々、緊張気味の生徒たちでしたが、料理の出来栄はばっちりです。炊きたての会津コシヒカリ(JA全農福島提供)と一緒に、作り上げた料理をべろりと平らげていました。

【野菜の定植篇】

5月29日(火)には、食料科2年生35名の女子生徒たちが野菜の定植をしました。スクールカラーのピンクのTシャツを着て、準備万端の生徒たちを乗せたバスがたどり着いたのは、郡山市西田で農業を営む服部さんの圃場です。この日は、服部さんに教

わりながら、ミニトマトの定植と、えだまめ・トウモロコシの種を播きました。マルチシートを張るところから協力して準備を進め、仲良く並んで苗や種を持ち、一つずつ植えていきました。「あー！豆(種)が転がっていったやつー!!」と笑い始める場面もあり、気温が高いなかの作業でしたが、自然豊かな場所での授業に、生徒たちは楽しそうに取り組んでいました。



ミニトマトの苗をみんなで植えました

【田んぼの生き物調査篇】

7月12日(木)、食料科1年生41名の女子生徒たちが田んぼの生き物調査を行いました。調査をしたのは、自ら田植えをした郡山市三穂田の田んぼです。講師は(株)全農ビジネスサポートの中川護先生です。「さっそく裸足になって、田んぼに入ってみましょう。ゆっくり進んで、よく見て探してみてください。」

一列に並んで、いざ、田んぼに一步踏み出し・・・田んぼは、曇り空を遠くに吹き飛ばすほどの、にぎやかさ



田んぼの生き物調査中！

となりました。生き物を捕まえたあとは、班に分かれ、図鑑と照らし合わせながら、調査シートに記入します。「このカエル、小さくてかわいい」と、楽しそうな様子で、合計25種類も見つけることができました。

生き物調査のあとは、事前に自分たちで作ってきた「おにぎり」で昼食タイムです。JA全農福島提供の「ひとめぼれ」で作ったおにぎりと、県産冷やしキュウリ&トマトを、美味しく頬張っていました。生き物が苦手な生徒さんも、自分たちで田植えをした田んぼが多くの生き物を育み、自然環境を守る役割をしていること、そして今回のようにお米を沢山食べることが、自然環境と農業を守ることに繋がると、学んでくれたようでした。

【野菜収穫篇】

8月21日(火)、食料科2年生35名の女子生徒が、定植をした野菜の収穫を行いました。ミニトマトは、生徒たちの背丈を上まわるほどの高さまで成長し、赤と黄色のツヤツヤとした実がたくさんなっていました。

「みなさんが植えたミニトマトがこんなに大きく成長しました。協力して収穫しましょう！」ナイロン袋を片手に、早速、収穫開始です。収穫



自分たちで植えたトウモロコシをほおぼる生徒たち

の合間に、ちよつと味見もしてみます。「甘い！」「おいしいー！」生徒たちから、笑みがこぼれます。「ほら、みんな、給食用のミニトマト採るの手伝って！」先生から撒が飛び、暑いなかではありましたが、元気がいっぱい楽しそうに収穫を行っていました。収穫のあとは、生徒たちが定植し、事前に収穫しておいた「ゆでトウモロコシ」を味わいました。圃場主の服部さんから「暑いなかご苦労様でした。ぜひ、



ミニトマトはこんなにたくさん！

今日収穫したもので、おいしい料理を作ってください」とお話がありました。生徒たちは「頑張つて、おいしい料理を作ります！」と笑顔で話してくれました。

(JKアグリスクール後編「稲刈り篇」「閉講式」については、別号にて掲載予定です。)